

第3章 看護

1 看護部門運営の動向

(1) 看護部の理念

埼玉県立小児医療センター看護部は、病院の理念「こどもたちの未来は私たちの未来」をもとに、「こどもたちの未来のために、こどもたちの最善を目指した看護を提供する」を理念としている。

(2) 平成27年度 看護部の目標

平成27年度の看護部は、平成28年度のさいたま新都心への移転を念頭に置きながら、安全・安心を重視した信頼される看護を目指すために、人材育成を重要課題として、バランススコアカード(BSC)を活用し、組織全体で取り組んだ。

目標1. 基本を遵守し、安全・安心を重視した信頼される看護を提供する

キーワード：6R、手洗い、接遇、5S

目標2. 平成28年度新病院開設に向け整備を進める

- 1) 効率的・効果的な研修の実施と整備を進める
- 2) 院内留学・院外派遣研修を推進し実践力の向上を図る
- 3) 看護部の委員会活動・チーム活動のステップアップを推進する

目標3. 働きやすい職場環境を整備し、職務満足度を高め、看護師の確保と定着を図る

①計画的な年休取得、②時間外業務の削減、③多様な勤務形態

(3) 平成27年度の成果が得られた取り組み

1) 看護実践力・専門性の向上

新病院に向けた人材育成として、さいたま赤十字病院との人事交流研修を企画実施した。

当センターからは長期研修1名、短期研修40名を派遣した。また、さいたま赤十字病院からも25名の研修を受け入れた。交流研修を通じ新病院移転に向けた自己の意識向上と、病院間の連携の必要性ならびに他施設を知ることで、自部署の課題発見につながったことは大きな成果であった。院内留学については、新病院での自部署・自己の役割拡大を目的とし、期間も1週間から3か月間の長期に及び実施でき人材育成につなげることができた。

2) 看護師の定着と確保

看護師の確保として、インターンシップは113名、病院見学会には66名(前年比+38/+17)の参加であった。学生だけでなく既卒者の参加も増加した。受け入れに対しては参加者本人の希望を優先し対応したことで参加者の97%が満足と答えていた。看護系大学及び養成校への訪問(就職説明会を含む)は、18校(新規9校)に実施した。養成校へは卒業生である看護師とともに訪問することで、養成校とのつながりが作れたことと、同行した看護師が先輩看護師としての自覚をもつよい機会となった。訪問の他、新病院のアピールも含め看護師募集用のポスターを作成し、先輩看護師からのメッセージとともに全国の養成校86校に郵送した。結果として平成28年度新規採用職員は84名と前年度よりも13名多く採用できた。

3) 収益の確保と増収(病床利用率の向上)

病床利用率80%を目指し、入院依頼を断らないことを信条として、医師、各病棟師長と連携を取り、ベッドコントロールを行った。目標の80%には到達できなかったものの、平均在院日数13.2日(前年比-0.3日)の状況で78.5%(+3.5%)まで上げることができ、さらに診療科にとらわれない、有効な病床利用につなげることができた。

4) 看護管理会議での取り組み

毎月第1・第3水曜日 13:30~15:30に開催し、人事、経営(財務)状況、人材育成、業務、人材確保、医療安全、感染防止等に関する報告や新病院に向けた準備検討の場として協議を行った。

第4水曜日は看護管理検討会として、上半期は各種委員会①オレム理論推進委員会②継続看護委員会③防災対策委員会④助手連絡会議および看護助手の教育の在り方について検討した。下半期は①人

材確保・ホームページの更新②静脈注射を安全に行うための実施基準作成③変則3交代勤務、④パートナースhip (PNS) の運用について、ワーキンググループを作り検討を進めた。

上半期の検討結果では、各委員会の課題が明確となり、その後の委員会活動の活性化につなげることができた。下半期では、②静脈注射を安全に行うための実施基準作成により、循環動態に影響を及ぼす薬剤、抗がん剤、麻薬など、取り扱いに注意を要する薬剤は、研修受講と知識テストを実施することになった。安全面からも意義のある取り組みとなった。

2 看護部の組織概要

(1) 看護職員の人事

看護部組織は、看護部長1名、副部長4名（人材育成、地域連携室兼業務、新病院準備、病棟師長兼務人材確保）とし12看護単位を師長9名（手術室・中央滅菌材料室は兼務、教育担当1名含む）、副師長5名で管理運営している。人材育成の強化として教育担当師長の配置と、感染対策の強化として感染管理認定看護師2名を専従で配置した。

平成27年度は、新病院に向けて50名の増員があり、看護部組織定数は481名（医療安全管理室専従看護主査1・専従感染管理看護師1名含む）となった。4月1日は、常勤458名（欠員23名）、非常勤3名、看護補助者77名（常勤、非常勤、派遣を含む）、保育士12名、新採用職員は70名（新卒者64名、既卒者6名）でスタートした。

平成27年度の退職者は36名で離職率は7.8%、新卒者の1年以内の退職は8名（12%）と増加した。看護師の平均年齢は30.9歳であった。年2回、看護師の能力開発、モチベーションの向上等のために配置転換希望をとり、ローテーションを実施した。

現在2名の小児看護専門看護師と10分野18名の認定看護師がセンター内でのチーム医療の一員として、活動の場を広げてきている。特に専門領域の知識・経験を活かして、精神科認定看護師には、新採用職員のメンタルサポートにかかわれるよう調整を図った。

(2) 看護単位の特徴

看護単位	定床	看護師配置数 (常勤・非常勤・育代)	看護単位毎の特徴
幼児学童第一病棟 (1A)	38床(家族支援室 3床)	36	<ul style="list-style-type: none"> ・長期治療を必要とする慢性疾患の幼児学童期患児の看護 ・腎臓科、感染免疫科、血液腫瘍科等 ・在宅療養を必要とする患児の退院前家族指導 ・家族支援病室の内科・外科疾患患児の看護 ・透析を受ける患者の看護
幼児学童第二病棟 (1B)	46床	38	<ul style="list-style-type: none"> ・内科・外科疾患の幼児学童期患児の看護 ・主な診療科は感染免疫科、総合診療科、代謝内分泌科、神経科、整形外科、形成外科、耳鼻咽喉科、外科等
循環器病棟 (2A)	30床 (CCU4床)	43	<ul style="list-style-type: none"> ・先天性及び後天性循環器疾患(主に心臓疾患)の内科的・外科的治療を受ける患児の看護
外科第一病棟 (2B)	33床 (ICU4床)	40	<ul style="list-style-type: none"> ・外科、形成外科、眼科、歯科疾患患児の看護 ・重篤な疾患、集中治療を必要としている患児の
外科第二病棟 (2C)	37床 (ICU4床)	37	<ul style="list-style-type: none"> ・脳神経外科、整形外科、泌尿器科、耳鼻科疾患患児の看護
内科第一病棟 (3A)	33床 (無菌室2床)	39	<ul style="list-style-type: none"> ・血液腫瘍疾患患児の看護 ・骨髄移植患児の看護
内科第二病棟 (3C)	35床	45	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の内科系等疾患患児の看護 ・感染性疾患を持つ急性期の患者の看護

看護単位	定床	看護師配置数 (常勤・非常勤・育代)	看護単位毎の特色
未熟児新生児病棟 (3D)	42床 (NICU15床 GCU27床)	86	・極小及び超低出生体重児の看護 ・ハイリスク新生児の看護
外 来・救 急	1 C (救急病 室6床)	35	・外来診療の介助 ・外来検査介助(放射線およびカテ室を含む) ・救急病室入院患児の看護(入院1泊原則) ・小児保健・発達部門外来受診患児の看護
在宅支援相談室		4	・在宅移行困難患者への退院調整 ・在宅療養支援(相談、指導、在宅ケア評価、訪問看護等)
手術室		27	・手術をうける患児の看護
中央材料室		0	・診断、治療に必要な診材・器材管理 *業者委託

*産休・育休職員 26 人 (H27 年 4 月)

(3) 看護体制について

当センターでは、一般病棟入院基本料（7対1）（看護職員を患者7人に対し常時1名以上配置、看護師7割以上）の看護配置基準を基本に、特定入院料に応じた職員配置を実施している。

当センターにおける病棟別の適用入院料は以下のとおりである。

病棟	区分	病床数	適用入院料
1 A	一般	38	小児入院医療管理料 1 (夜間 9 対 1)
1 B	一般	46	小児入院医療管理料 1 (夜間 9 対 1)
1 C	一般	6	一般病棟入院基本料 (7 対 1)
2 A	一般	26	小児入院医療管理料 1 (夜間 9 対 1)
	CCU	4	特定集中治療室管理料 3 (常時 2 対 1)
2 B	一般	29	小児入院医療管理料 1 (夜間 9 対 1)
	ICU	4	特定集中治療室管理料 3 (常時 2 対 1)
2 C	一般・ICU	37	小児入院医療管理料 1 (夜間 9 対 1)
3 A	一般	33	小児入院医療管理料 1 (夜間 9 対 1)
3 C	一般	35	小児入院医療管理料 1 (夜間 9 対 1)
3 D	GCU	27	新生児治療回復室入院医療管理料(常時 6 対 1) *H27年 8 月～9 床をGCUへ変更
	NICU	15	新生児特定集中治療室管理料 1 (常時 3 対 1)
合 計		300	

看護方式は、チームナーシングを軸にプライマリナーシング、一部パートナーシップを取り入れ看護を実践している。

3 在宅支援相談担当について

在宅支援相談室が、1看護単位として稼働し12年目を迎え、スタッフは副師長1、専任看護師4人（在宅経験1・2・3・5年目）の5名体制でスタートした。

業務として、1）相談・指導、2）訪問看護（退院前、退院後）、3）退院調整、4）地域連携、5）他部門との調整、6）特殊外来支援、7）院内外の教育活動、を実践した。総相談件数は、7066件（前年比－4.4%）であった。また、診療報酬上、看護師が算定できる在宅療養指導料の件数は、835件（前年比＋1.1%）であった。

平成27年度は、在宅支援体制の強化を継続目標とし、在宅療養中の患児・家族の在宅環境をより向上するための取り組みを行った。

【主な取り組み】

① 新生児特定集中治療室退院調整加算2の取得増加

平成26年度は退院調整加算1を305件取得した。今年度は退院調整加算2の取得を目標に挙げ146件（前年比＋29%）であった。今後も退院後に地域支援の必要な患者・家族へ早期に退院支援・調整を行えるよう積極的な介入をしていく。

② 衛生材料の見直し

気管切開刺入部のトラクロスガーゼの滅菌を廃止した。気管内分泌物を吸収するものであり滅菌の必要性を要しないことを、患者・家族へ紙面と口頭で説明し同意を得て、未滅菌対応へ移行することが出来た。

③ 特殊外来の業務移行

病棟での退院調整やカンファレンスの参加、相談対応業務の時間確保に向けて業務の見直しを行った。在宅支援相談室が行ってきた、在宅担当患者の救急受け入れ調整、胃瘻交換、気管切開外来の介助は、外来に移行することが出来た。

④ ショートケアの運営（4月～10月）

今年度のショートケア（緊急含む）は、18件（前年比－53%）であった。依頼患者の医療ケアとして、介助支援の多い人工呼吸器装着児が7人／18件（39%）であった。レスパイト希望の主な理由として家族休養、同胞支援が半分以上占めていた。

その他に家族の急な事情（養育者の入院、親族の葬儀など）があった。

今年度減少した背景には、レスパイト機能をもつ医療型施設が増加したことが挙げられる。施設を利用している家族からは、事前に家族行事などを計画し数か所のレスパイト施設を上手く活用し支援を受けているとの報告があった。

⑤ 緩和ケアチームと合同定時ラウンドの実施

退院調整の院内連携強化の取り組みとして、1回/月（第3金曜日）の定時ラウンド、1回/週（金曜日）のミーティングを実施した。

⑥ 在宅だより発行（2回/ 5月6月）

在宅支援相談室・継続看護のアピールとして、活動内容や継続看護に関する内容、診療材料の変更のお知らせなどを掲載した院内スタッフ向けの広報誌を発行した。

⑦ 第12回小児在宅看護研修会の開催

地域支援の一環として、訪問看護ステーション・特別支援学校を対象にした。「在宅療養を必要とする小児のフィジカルアセスメント」をテーマとし、講演とグループディスカッションを行った。訪問看護ステーション36施設、特別支援学校7校、合計65名の参加があった。研修後のアンケート結果より、研修回数を2～3回に増やしてほしいという意見が多くあり、次年度の課題とした。

4 看護状況

平成 27 年度 看護状況集計調査結果平均値 (平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月)

	1 A	1 B	1 C	2 A	2 B	2 C	3 A	3 C	3 D	合計・ 平均等
病床数	38	46	6	30	33	37	33	35	42	300
平均病床利用率(%)	86.9	64.1	37.9	82.3	76.2	80.2	82.6	74.4	90.5	78.5
重症比率(%)	89.9	43.8	41.3	89.6	51.8	53.0	88.3	91.8	100.0	72.2
患者数(在籍者数)	12,084	10,796	832	9,040	9,205	10,858	9,980	9,526	13,916	86,237
入院総数	734	811	799	591	1,082	1,001	537	525	431	6,511
(緊急入院数)	184	237	148	173	247	86	82	339	429	1,925
退院総数	730	859	757	597	1,060	1,007	523	588	386	6,507
(死亡退院)	1	5	0	7	0	2	4	10	10	39
手術患者数	65	297	1	173	889	790	40	31	37	2,323
人工呼吸器装着	15	1,092	2	784	745	200	21	1,566	3,165	7,590
気管切開患者	148	895	1	587	713	134	43	1,272	357	4,150
酸素使用者	219	659	5	2,692	1,935	266	653	2,555	3,074	12,058
モニター装着	1,232	5,961	12	13,670	4,692	3,998	1,600	6,356	25,382	62,903
点滴管理(CVを含む)	7,224	1,559	0	1,833	1,404	1,054	8,665	1,708	3879	27,326
感染状況	630	877	9	1,867	1,214	433	401	1,560	1,674	8,665

5 教育・研修

教育目的： 1. 県立病院としての当センターの果たすべき役割を理解し、組織の一員として行動できるよう養成する。

2. 小児看護の専門性を追求し、質の高い看護を実践できる能力を育てる。

目 標： 1. 小児看護の専門知識・技術を深め、看護の実践能力を高める。

2. コミュニケーション能力を高め、患者・家族および医療チームの中で仁愛に満ちた望ましい対人関係がとれる。

3. 小児専門病院の看護師として、役割と責任を自覚し自律的に行動できる。

4. 知悉・技巧・仁愛・自律のバランスをとり、問題解決能力を身につけ、医療チームの中で、リーダーシップが発揮できる。

(1) 院内研修実績状況

	研修名	日程と方法	対象者	講師	目的	人数
	看護部新入職員総合オリエンテーション	4/2(水) 4/4(金) 4/7(月) 4/8(火) 4/9(水) 4/12(土) 4/15(火) 4/23(水) 4/30(水) 講義、演習 グループ ワーク他	新卒・既卒新採用 看護師 異動者	病院長 副病院長 看護部長 看護ケア質 向上委員会 業務改善委 員会 院内リスク マネジャー 他	1) 小児医療センターの役割を知る。 2) 看護部の方針を理解し、各看護単位の特徴を知る。 3) センター職員として自覚し、小児看護実践への動機づけをする。 4) 社会人としての自覚を持つ。 5) 子どもを理解する。 6) 医療安全の基本を学ぶ。 7) 感染対策の基本を学ぶ。 8) 現在の目標・課題を明らかにする。	65
	看護倫理 I ①～③	5/9(金) 5/12(月) 1/23(金) 3/6(金) 講義、演習 グループ ワーク	新卒新採用看護師 既卒新採用看護師 異動者(希望者)	小児看護専門 看護師	1) 自己の看護実践の基盤となる看護師の倫理綱領を学び、看護倫理に関心を持つことができる。 2) 看護師の倫理綱領の内容を自らの具体的行動レベルで理解でき、日々の看護実践に生かせることを意識する。 3) 看護実践の中で、倫理問題に気づくことができる。 4) インフォームドコンセントについて基礎的知識を理解する。	61
レ ベ ル I 研 修	フィジカル アセスメント	5/9(金) 5/12(月) 講義、演習	新卒新採用看護師 異動者(希望者)	看護ケア質 向上委員会 業務改善委 員会	1) 小児看護におけるフィジカルアセスメントの重要性を理解できる。 2) フィジカルアセスメントで得た情報を看護にどのように生かせばよいかわかる。	61
	フィジカル アセスメント のための 基礎知識	6/27(金) 7/18(金) 10/24(金) 11/14(金) 12/11(木) 講義	新卒新採用看護師 既卒新採用看護師 異動者(希望者)	院内看護師 院内医師 栄養士 理学療法士	1) フィジカルアセスメントに必要な知識やスキルを理解することができる。 2) 病気の子どものフィジカルアセスメントを実施し、知識・技術・思考能力を看護実践につなげる能力を養う。 ①小児の栄養 ②身体バランスとポジショニング ③未熟であることの影響 ④小児の呼吸 ⑤循環動態と心奇形 ⑥発生学と奇形 ⑦脳の発達 ⑧小児と薬 ⑨小児の体液管理・輸液管理	64
	小児看護技 術演習	5/24(土) 6/27(金) 講義・技術 演習	新卒新採用看護師 既卒新採用看護師 異動者(希望者)	看護ケア質 向上委員会 業務改善委 員会	1) 小児看護の基本的技術を習得する。 ①清潔・排泄の援助 ②食事の援助 ③移送 ④身体抑制 ⑤睡眠導入の看護	65
	子どもとの 関わり方	7/18(金) 講義・演 習・グルー プワーク	新卒新採用看護師	院外講師 (親業トレー ナー)	1) 「能動的な聞き方」と「私メッセージ」について学び、子どもと関わる能力を養う。	62

	研修名	日程と方法	対象者	講師	目的	人数
レベルⅠ研修	救急看護(蘇生トレーニング)	10/10(金) 講義・演習・ロールプレイング 見学	新卒新採用看護師	小児救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師 RST看護部小委員会 他	小児の救急蘇生法とその看護について理解し、実践能力を養う。 1) 呼吸、循環について解剖生理学的に理解する。 2) 小児の救急蘇生法について学ぶ。 3) 急変時に必要な物品と機器の準備と、的確な処置、医師への介助の方法がわかる。 4) 観察、記録、報告の必要性がわかる。	59
	感染管理Ⅰ	11/14(金) 講義	新卒新採用看護師	感染管理認定看護師	1) 隔離方法を中心に感染管理の基礎を学ぶ。	59
	家族看護Ⅰ	12/11(木) 講義		院内看護師	1) 家族看護の対象を知る。 2) 小児看護領域での家族看護の意義を理解する。	59
	オレムによるセルフケア支援	1/23(金) 講義	新卒新採用看護師	院内看護師	1) セルフケア不足理論(オレム看護理論)の概観を知る。 2) 日頃の看護にセルフケア支援を結びつけ統合できる。	56
	看護計画の展開①②	7/18(金) 1/23(金) 講義、グループワーク	新卒新採用看護師	看護ケア質向上委員会	1) 生活歴を基にした初期計画の展開方法を知る 2) 家族参加型計画の概要を学ぶ。 3) 構造図を用いた対象理解の方法を学ぶ。	61
	プライマリーナース育成研修Ⅰ	11/14(金) 講義、演習	新卒新採用看護師 既卒新採用看護師と異動者(希望者)	院内看護師	1) プライマリーナースとしての役割を理解する。 2) 看護の継続性について学ぶ。 3) 家族参画型看護計画の実践方法を学ぶ。	58
	リスクマネジメント研修Ⅰ	5/29(木) 講義、グループワーク	新卒新採用看護師	院内リスクマネージャー	1) 医療安全における看護師の役割と責任について理解する。 2) 基本的な事故防止策に沿った看護実践ができる。 3) 多重課題があっても、安全に看護を実践する必要性を理解する。	62
	フォローアップ研修①～④	5/9(金) 5/12(月) 7/18(金) 11/14(金) 12/11(木) 3/6(金) 演習、グループワーク	新卒新採用看護師	看護部教育委員会 アドバイザー	1) 同期の交流の場とし情報交換を通してリフレッシュする。 2) 悩みや不安を表出する。	61
	2年目に向けて(フォローアップ⑤)	3/6(金) グループワーク	新卒新採用看護師	看護部教育委員会 アドバイザー	1) 1年間の自己の振り返りを行い、2年目に向けて目標を確認する。 2) 実践の中で印象に残った場面をまとめ、自己の成長を確かめ、さらに看護の考え方を深める。	58
	看護倫理Ⅱ	11/28(金) 講義、グループワーク	レベルⅡ、Ⅲ研修対象者 既卒新採用者と異動者(希望者)	小児看護専門看護師	1) 自己の行動に責任を持ち、患者・家族の立場に立った倫理的配慮ができる。 2) 小児領域に特有の倫理的問題を理解できる。	27
レベルⅡ研修	小児の成長発達と看護	5/28(水) 6/2(月) 講義	レベルⅡ研修対象者 既卒新採用者と異動者(希望者)	小児看護専門看護師	1) 子どもの成長発達を理論的に学ぶ。 2) 子どもの成長発達を視野に入れた看護の展開につなげる。	42
	褥瘡予防とスキンケア	6/6(金)	レベルⅡ研修対象者 既卒新採用者と異動者(希望者)	皮膚排泄ケア認定看護師	1) 褥瘡ケアにおける予防の重要性を理解し、ケアの実際を学ぶ。 2) 小児におけるスキンケアの技術を学ぶ。	38
	医療安全・基礎編	6/25(水) 7/16(水)	レベルⅡ研修対象者	埼看護協研修	埼玉県看護協会教育計画参照	34
	感染予防の具体的実践	7/31(木)	レベルⅡ研修対象者	埼看護協研修	埼玉県看護協会教育計画参照	26
	小児精神と虐待	7/15(火) 講義	レベルⅡ研修対象者	院内講師	1) 児童虐待について学び、看護の役割を考えることができる。	33
	家族看護Ⅱ	7/22(火) 講義	レベルⅡ研修対象者	院内看護師	1) 家族看護のアセスメントの視点を学ぶ。 2) 家族看護における効果的な看護介入の実際を学ぶ。	32
	プライマリーナース育成研修Ⅱ	9/5(金) 講義、グループワーク	レベルⅡ研修対象者で必須の研修が終了しているもの	在宅支援相談室看護師	1) プライマリーナースとして家族支援の必要性を理解する。 2) 社会資源の活用や在宅化に向けての支援について学ぶ。	26
	リスクマネジメント研修Ⅱ	9/26(金) 講義、グループワーク	レベルⅡ研修対象者 院外研修終了者	院内リスクマネージャー 感染管理認定看護師 看護師	1) 個人レベル(自分)の医療事故防止ができる能力を養う。 2) 感染症発生時にリーダーシップを発揮して対応できる能力を養う。	22

	研修名	日程と方法	対象者	講師	目的	人数
レベルⅡ研修	プリセプターシップ研修	1/22(木) 2/5(木)	次年度のプリセプター候補者	埼看協研修	埼玉県看護協会教育計画参照	26
	プリセプターフォローアップ研修	7/15(火) 講義、グループワーク	今年度のプリセプター	院内看護師	1) プリセプターを支援するバックアップシステムを再確認し、活用することができる。 2) 各看護単位の情報を共有する。	24
	リーダーシップ研修Ⅰ	10/15(水) 講義、グループワーク	レベルⅡ研修対象者且つ、リーダートレーニング修了者	院外講師 会場;院外施設	1) リーダーの役割を学ぶ。 2) リーダーシップの要素がわかり状況に応じたリーダーシップが発揮できる。	26
	看護研究基礎Ⅰ	12/1(月) 講義、発表	レベルⅡ研修対象者	看護研究委員会	1) 看護研究のプロセスが理解できる。 2) 研究の意義を理解し、指導を受けながら研究計画書を作成する。	39
	看護観	導入; 5/16(金) 文献学習 報告会; 1/30(金)	レベルⅡ研修対象者 既卒新採用者と異動者(希望者)	各看護師長 アドバイザー 教育委員	1) 自分の看護を振り返り、自己の看護観をまとめる。 2) 参考文献や指導者との関わりを通して、他者の看護観を学ぶ。 3) 今後の課題を明確にすることができる。	16
	2年めフォローアップ研修	6/30(月)	平成25年度採用看護師	院外講師	1) 自己のストレス反応を知る。 2) ストレス解消法を学ぶ。	35
レベルⅢ研修	看護倫理Ⅲ	8/1(金) 講義、グループワーク	レベルⅢ研修対象者 既卒新採用者と異動者(希望者)	小児看護専門看護師	1) 倫理的問題について、患者、家族を尊重した対処ができる。 2) 看護実践の中で起こる倫理的問題について問題提起ができる。 3) インフォームドコンセントにおける看護師としての役割を果たすことができる。	8
	リスクマネジメント研修Ⅲ	7/4(金) 講義、グループワーク	レベルⅢ研修対象者	院内リスク マネジャー 感染管理認定看護師	1) リスクマネジメントの考え方を学び、根拠のある事故防止対策を考え実践できる。 2) 自部署におけるリスクマネジメントにおいてリーダーシップがとれる。 3) 感染防止技術・職業感染防止を理解し、自部署で改善活動ができる。	15
	リーダーシップ研修Ⅱ	10/29(水) 講義、グループワーク 発表会;翌年	レベルⅢ研修対象者	業務担当副部長	1) 組織の目的と仕組み、看護管理の目的・方法・評価について学ぶ。 2) 職場改善を通して、変革を進めるリーダーシップ能力を高める。 3) 実践を通して、PDCAサイクルを理解する。	8
	コンフリクト・マネジメントⅠ	7/28(月) 講義、演習	レベルⅢ研修対象者	院内講師	1) コンフリクト・マネジメントの概念を理解し、実践に生かすことができる。	25
	プライマリナーズ育成研修Ⅲ	11/7(金) 講義、グループワーク	レベルⅢ研修対象者	院外講師	1) 自分が受け持ったプライマリーの事例検討を報告することができる。 2) 他者の意見を聞き、プライマリナーズとして課題が見つけられる。	12
	家族看護Ⅲ	1/31(土) 講義	レベルⅢ研修対象者	院外講師	1) 家族看護の理論を活用し、家族看護介入の展開ができる。 2) 事例を通し、家族看護理論を実践に活かすことができる。	12
レベルⅣ研修	コンフリクト・マネジメントⅡ	12/19(金) 講義、演習	レベルⅣ研修対象者	院外講師	コンフリクト・マネジメントの概念を理解し、実践に生かすことができる。	17
	看護倫理Ⅳ	11/1(土) 講義	看護倫理Ⅲ修了者 キャリア研修了者	院外講師	1) 倫理的問題の分析方法を学び、活用できる。 2) 倫理的問題について、医療チームと連携をとり対処できる。	9
	看護管理実践研修	導入; 5/22(木) 報告者 提出; 1/30(金)	レベルⅣ研修対象者	教育担当副部長	1) 看護の質の保証と看護管理について学ぶ。 2) 看護管理実践について、その成果を報告できる。	8

	研修名	日程と方法	対象者	講師	目的	人数
その他	助手研修	<新採用者研修>①感染防止基礎 5/19(月) 5/27(火) 5/30(金) 講義、演習	看護助手	業務担当副部長	1) 組織の一員としての役割行動がとれる。 2) 患者の日常生活支援について学ぶ。	79
		②医療安全基礎 7/17(木) 7/22(月) 7/24(木) 7/30(水) 7/31(木) 8/14(木) 8/19(火)				
	長期研修報告会	2/27(金)	全看護職員	教育委員会	1) 院外研修における学びや新しい情報を看護師間で共有する。	31

(2) 施設外研修参加状況および、職員派遣

研修会名	人数	研修会名	人数
①看護管理		⑥日本小児看護学会研修会	
認定看護管理者教育ファーストレベル	5	施設から在宅への移行支援を学ぼう	5
認定看護管理者教育セカンドレベル	1	⑦その他	
日本看護職副病院長連絡協議会研修会	1	PNS新看護方式導入・運用・定着の秘訣研修	5
全国自治体病院看護部会研修会	3	子どものための小児造血幹細胞移植に携わる 若手ナースのためのセミナー	1
全国自治体病院看護管理研修	1	小児がん相談員専門研修	1
②看護学生実習指導		がん医療における緩和ケアの現在・未来	1
埼玉県委託事業看護学生実習指導者講習会42日	2	造血幹細胞移植拠点病院研修会	3
看護学生実習指導者講習会フォローアップ研修	2	重症度、医療・看護必要度評価者養成研修会	4
③医療安全管理(災害看護を含む)		成育医療研修会	1
<全国自治体病院協議会主催>		新人看護職員研修のプログラム開発研修	1
医療安全管理者養成研修会	1	脳死下臓器提供施設研修会	2
<埼玉看護協会主催>	3	小児脳腫瘍多職種診療チーム研修	1
医療安全管理者研修(7日)	53	京都府立医科大学看護研究会交流会	3
医療安全：基礎編	2	⑧視察	
医療安全：医療安全管理体制	2	病院視察(東京都立小児総合医療センター)	5
医療安全管理者フォローアップ研修	2	海外視察(カナダ・アメリカ)	1
災害看護管理者編(1日)	1	⑨埼玉県看護協会主催	
災害看護スタッフ編(1日)	1	新人看護職員教育担当者研修 I (1日)	1
災害支援フォローアップ研修	1	新人看護職員実地指導者研修(1日)	1
④感染管理(埼玉県看護協会主催)		看護職に求められる倫理：初級編	2
感染予防対策の基礎知識	1	看護職に求められる倫理：中級編	2
感染予防対策の具体的実践	47	理解を深める看護倫理	1
⑤日本看護協会主催		リーダーシップ研修	2
小児がん看護専門性向上研修(3日)	1	元気な職場を作るコミュニケーション	1
小児在宅療養支援研修	1	チーム医療における看護職のコミュニケーション	1

研修会名	人数	研修会名	人数
病院で働く看護職に求められる退院支援Ⅰ	1	周産期のメンタルヘルスケア	4
病院で働く看護職に求められる退院支援Ⅱ	1	癒しを活用するタクティールケア	2
パーソナリティー障害を持つひとの理解	1	労働者として知っておきたい労働基準法の基礎知識	1
周手術期の看護の実際Ⅱ	2	プリセプターシップ①②	53
看護記録パーフェクトガイド	1	論理的思考による文章作成	5
入院基本料に係る看護記録：スタッフ編	2	論理的思考による問題解決	2
心電図の基礎①②	8	がん化学療法の基礎知識と看護	6
心電図判断スキルアップ	7	がん放射線療法の理解と看護	4
人工呼吸の安全な取り扱いと看護①②③	8	発達障害児支援研修(2日間)	4
臨床における救急医療の実際	4	がん性疼痛看護	5
からだが見える臨床検査	3	がん患者の退院支援と地連携	3
体位排痰法①②③	8	新主任！実践！	1
ドレーン管理の実際	9	組織マネジメントと人材育成	6
フィジカルアセスメント	2	組織における退院調整の整備と強化	1
家族看護	1	看護に活かす形態機能学	1
PEG・瘻孔・ストーマケア	1	おもしろくなる看護管理	1
臨床で実践！褥瘡ケアの実際	3	研究成果100%伝えるためのプレゼンテーション	2
癒しのリンパケア	3	組織における退院調整の整備と強化	3
小児の救急看護	6	看護に活かす形態機能学	2
感情と看護	4	おもしろくなる看護管理	2
基礎から学ぶ看護過程(2日間)	1	看護研究における指導者の役割	3
透析治療と看護	1	看護研究の進め方(4日間)	2
エンドオブライフケア	1	人を育てること・教えることとは基礎編	7
こどもを取り巻く環境と虐待対策	8	人を育てること・教えることとは応用編	6
思春期の性	1	新任臨地実習者の役割と実際	2
痛くない乳房ケア	1	ドラッガーとナイチンゲールに学ぶ	2

(3) 学会等参加状況

学会名	人数	学会名	人数
日本感染管理ネットワーク学術集会	2	第43回日本重症集中治療学会	3
第58回 日本糖尿病学会	1	循環器看護学会	4
第29回日本小児救急医学会	1	日本経腸栄養学会	1
第20回日本緩和医療学会	4	第23回埼玉看護研究学会	10
第25回日本小児看護学会4	8	第9回埼玉医療安全大会	1
第46回日本看護学会慢性期看護	3	第5回日本医療マネジメント学会埼玉支部	10
第46回日本看護学会看護管理	1	埼玉県小児保健協会第83回研究会	2
第21回全国子ども虐待防止学会	7	看護サミット	2
第20回日本糖尿病教育看護学会	1	第13回日本小児がん看護学会	8
第21回日本小児麻酔学会	1	第31回日本環境感染学会	20
第29回日本手術看護学会	1	第18回新生児呼吸法モニタリングフォーラム	5
第54回全国自治体病院学会	2	第25回日本新生児看護学会	3
医療の質安全学会 第10回学術集会	17	日本小児集中治療研究会	1

(4) 実習生受入状況

学 校 名	1 グループ日数	グループ	グループ人数	人数	延べ人数
県立高等看護学院	10日	16	5～6人	79人	790
県立大学看護学科小児療養支援実習	7日	17	5～6人	82人	566
県立大学看護学科総合実習	10日	3	5人	12人	120
常盤高等学校専攻科	8日	13	4～5人	59人	472
埼玉大学養護教諭養成課程	0.5日	1	24人	24人	12
日本保健医療大学	4日	13	4～5人	62人	248
目白大学	5日	13	4～6人	64人	320
東都医療大学看護学科	5日	10	4～5人	43人	215
東都医療大学看護学科(統合実習)	7日	1	5人	5人	35
東都医療大学助産学専攻科	1日	2	3人	6人	6
さいたま赤十字看護専門学校	4日	14	3～5人	49人	196
日本医療科学大学	5日	4	5人	20人	95
帝京科学大学	4日	2	5人	10人	40
合計				515	3115

(5) 研修生受入状況

施 設 名	研 修 名	期 間	受入先	人数
北里大学看護キャリア開発研究センター	新生児集中ケア認定看護師教育課程	1月14日～2月16日 (23日間)	3 D	看護師2名
さいたま赤十字病院	小児看護実践研修	12月3日～2月24日	2 A・2 B・2 C 3 A・3 D・OP	看護師26名
春日部市立病院	小児看護実践研修	1月12日～3月31日	3 D・3 C	看護師2名

6 看護部各種委員会

	活 動 内 容
看護部教育委員会	<p>1. 委員会運営状況：毎月第1木曜日に開催 合計13回の開催(8月は休会)</p> <p>2. 活動内容</p> <p>1) 平成27年度教育研修計画にそって実施・評価及び次年度の教育計画案を策定した。ラダー研修は、延べ日数67日(4月の看護部新人職員総合研修除く)、レベル別ではレベルⅠ：34講座、レベルⅡ：15講座、レベルⅢ：7講座、レベルⅣ：2講座を実施。延べ受講者数は、2926名。新病院移転に伴う職員増員に応じ、希望者の多い研修に対して同一内容を2回ずつ実施した。</p> <p>2) 新採用者研修については、各委員会や専門・認定看護師と連携し実施。また、新人指導者連絡会では、職場適応状況や技術修得状況の把握を共有し、支援体制を促進した。</p> <p>3) クリニカルラダー認定承認は、レベルⅠ54名、レベルⅡ21名、レベルⅢ5名、レベルⅣ0名の計80名を行った。未認定の既卒者に対し、今年度作成した「既卒新採用者教育関連情報シート及び習熟レベル・受講免除申請書」の提出により、本人・師長・教育委員会の3者間での確認ツールとした。その情報を元に習熟レベルを明確にした。</p> <p>4) 次年度の研修計画は、新病院移転・開設の年度となるため、研修時期やラダー申請に影響がないよう配慮した。</p> <p>5) 分野別専門研修は、周産期看護研修・小児がん看護専門研修が中心であったが、次年度に向けて専門・認定看護師の専門性を活かした研修計画を立てた。</p> <p>6) 次年度のeラーニング導入に向けて活用案を検討し、看護管理会議で承認を得た。</p>
ケア質向上委員会	<p>1. 委員会運営状況：毎月第2木曜日開催 合計10回の開催(4月8月は休会)</p> <p>2. 活動内容</p> <p>1) 各看護単位で選択した臨床看護技術評価表の自己評価を全員が行い、評価表の活用推進及び看護の質向上への一歩とした。</p> <p>2) 各病棟の退院マニュアルを見直し統一案を作成した。</p> <p>3) 看護手順は、新規5項目、修正1項目実施した。看護基準Ⅰ・Ⅱは、業務改善委員会との協働により全項目見直し改訂し、電子カルテのデスクトップにアップした。</p> <p>4) オレム標準看護計画55題を新規作成し、電子カルテのデスクトップにアップした。</p> <p>5) 接遇評価を各看護単位で実施し、その結果・評価を共有した。来年度から使用する看護部共通(県立病院作成の接遇表)を見直し改訂した。</p> <p>6) 新看護方式PNSを導入した6病棟(幼児学童第1病棟、外科第1病棟、外科第2病棟・内科第1病棟・内科第2病棟、未熟児新生児病棟)の実施状況をもとに、PNS運用手順を作成した。</p>

	活 動 内 容
看護業務改善委員会	<p>1. 運営状況：毎月第2火曜日14～16時に開催（開催数10回）</p> <p>2. 活動内容</p> <p>1) 看護業務量調査の実施：11月17日 看護総数と受け持ち看護師に分け集計し、業務量の分析を行った。</p> <p>2) 電子カルテ手順を評価し、操作マニュアルの作成 (1) 電子カルテ操作(クリティカルパス、その他)の看護手順の見直し差し替えを「電子カルテマニュアル」にファイリング保存した。 (2) 看護基準Ⅱの見直し・修正を実施し、サイボウズにアップした。</p> <p>3) 助手教育(研修) (1) 研修受講録の作成 (2) 感染・医療安全の基礎研修の全員受講終了 (3) 研修内容のDVD化2講義作成(eランニングの検討) (4) 感染管理認定看護師による研修(ステップ編)</p> <p>4) 看護必要度の改訂内容の周知 「看護必要度チェックテスト」を作成し2回のテスト実施と結果の共有を行った。</p>
医療安全看護部小委員会	<p>1. 運営状況：毎月第3火曜日14～16時に開催した（開催数10回、4・8月は休会）。</p> <p>2. 活動内容</p> <p>1) 委員会全体の活動： (1) 医療安全ラウンドを4回（7月、10月、1月、2月）実施した。 (2) 各病棟リンクナースを主体に自部署での医療安全に関する取り組み目標の提示と報告をした。 (3) 指さし呼称他者評価を1回実施した。 (4) ImSAFERを用いた事故分析を2回実施した。（9月・1月）</p> <p>2) グループ毎の活動： (1) 患者誤認防止に関する業務担当：①患者誤認チェックリストの修正、②ネームバンド使用チェック③麻薬・毒薬・向精神薬取扱いに関するテストの実施 (2) 内服管理・検査に関する業務担当：①医療安全ラウンドによるチェック強化、②インシデント集計と比較 (3) 転倒転落に関する業務担当：①転倒転落アセスメントフローシートの改正と運用への周知、②離床センサー学習会の開催、③入院時転倒転落パンフレットの修正</p> <p>3) 自部署内での活動 (1) KYTカンファレンス・ラウンドを16回（全部署）実施した。</p> <p>4) 研修会での活動状況： (1) 看護部新人職員総合研修会に6名が講師・サポートとして参加した。 ラダー研修Ⅰは11名、研修Ⅱは5名、研修Ⅲは5名が講師・サポートとして参加した。</p>

	活 動 内 容
看護記録委員会	<p>1. 運営状況 毎月第4火曜日 14～16時開催、4月、8月は休会とした。</p> <p>2. 活動内容</p> <p>1) 看護記録の充実としてプロセス監査の改訂を行った。オレム看護計画に基づき、アセスメントに重点を置いた監査内容となった。監査表を導入するに当たり、オレム推進委員会とともにブレ監査を実施、共通理解をはかった。11月、各病棟3名分実施し、1月8名分の監査を実施した。形式の監査は6月・1月に監査を実施した。結果報告、結果の分析をおこなった。</p> <p>2) 新病院に向けた看護記録の整理では紙ベースカルテの検討を行った。術前看護経過記録については、文書入力にフォーマットがあるが、使用している病棟は1病棟であった。そのため、11月1日より、全病棟、電子カルテに移行し、紙カルテを廃止した。また、CUで使用しているフローシートBを電子カルテに移行した。ケア項目は昨年度に整理した項目に対し、システムで追加、修正、削除を実施した。また、セット化できるものはセット化した。</p> <p>3) 家族参加型看護計画の推進とした、ステップの進行度の調査を6月・9月・12月に実施した。</p> <p>4) 患者・家族用パスの作成をクリティカルパス委員会の依頼を受けて行っている。現在承認されているクリティカルパスをもとに患者・家族用パスの作成を行い、レイアウト等調整した。</p>
看護研究委員会	<p>1. 運営状況：毎月第1火曜日 14～16時に活動（開催回数10回）</p> <p>2. 活動内容</p> <p>1) 看護研究発表会 日時・場所：平成28年2月27日（土）9：00～12：00・保健発達棟研修室 参加者：135名 発表題数：8題</p> <p>2) 看護研究研修会 8G全5回（H27, 5/25、7/2、9/11、11/13、H28, 1/22） 講師：川口千鶴氏（順天堂大学 保健看護学部） 講師補佐：手塚真由美氏（自治医大 CNS）</p> <p>3) 看護研究院内教育 看護研究の基礎Ⅰ（レベルⅡ） 日時：平成28年1月28日（木）①8：30～12：00 ②13：30～17：00（同一内容） 講師：細井千晴（小児救急認定看護師）対象者：ラダーレベルⅡ習熟中看護師 58名 看護研究員内教育 看護研究の基礎Ⅱ（レベルⅡ） 日時：平成27年①10月8日、②11月5日（13：30～17：00） 講師：手塚真由美（小児専門看護師）対象者：ラダーレベルⅡ習熟中看護師 ①25名②22名</p> <p>4) 講演会 日時・場所：平成27年11月4日 17：30～19：00・保健発達棟研修室参加者：165名 講師・テーマ：副島賢和氏 「子どもとのコミュニケーション」</p> <p>5) 看護研究院外発表、予演会 5題（開催日H27, 8/24、10/6、H28, 1/5、1/22）</p> <p>6) 看護研究会総会（第33回） 日時・場所：平成27年4月24日（水）17：45～19：00・保健発達棟研修室 出席者200人 委任状229人</p>

	活 動 内 容
継続看護委員会	<p>1. 運営状況：今年度は退院調整支援を検討するため、休会とした。継続に関わる事項に関しては、関連箇所の継続委員と個別に対応し取り組んだ。</p> <p>2. 活動内容</p> <p>1) 家族用パンフレット：気管切開患者（在宅）／腹膜透析患者（1A）／自己導尿患者（外来）が担当し、見直しと改訂を実施した。</p> <p>2) 継続看護の充実・退院調整の連携強化</p> <p>(1) 継続看護依頼患者の困ったケースに関しては、当該師長と個別に関わり対応した。</p> <p>(2) 継続看護（様式1.2）記載について、在宅支援看護師が病棟カンファレンス時間に参加し、説明した。</p>
感染対策看護部小委員会	<p>1. 運営状況：毎月第3木曜日14時～16時に活動（開催回数10回）</p> <p>2. 活動内容</p> <p>1) 手指衛生サーベイランス</p> <p>毎月直接観察による実施状況調査と、石鹼・手指消毒剤手指衛生剤使用量調査を実施し、手指衛生実施率向上に向けて評価検討し改善に取り組んだ。</p> <p>2) 感染防止対策実施状況調査</p> <p>標準予防策及び血流感染対策チェックリストによる自己評価を7・1月に実施し、集計データから各部署の傾向を分析・検討し改善に取り組んだ。</p> <p>3) 手洗い講習会開催</p> <p>患者家族対象手洗い講習会（8月26日）、職員対象手洗い講習会（10月28日）の企画・運営を行った。</p> <p>4) 感染防止技術の標準化</p> <p>以下の基本的な看護業務における感染防止技術についてチェックリストを作成・改訂し、スタッフに教育・指導を行い、標準化に取り組んだ。①輸液管理（6、7月）②排泄ケア（9、10月）③環境整備・物品管理（12、1月）④吸引（2、3月）。</p>
防災看護部小委員会	<p>防災看護部小委員会</p> <p>1. 運営状況：毎月第3金曜日 14～16時に活動（開催回数8回）、11月、12月、2月の臨時開催3回</p> <p>2. 活動内容</p> <p>1) 院内災害対策訓練実践強化のため、外来訓練実践グループを編成して、訓練内容の計画立案、トリアージ方法、行動シミュレーションを考案した。これらの内容を委員会メンバー間で情報共有してロールプレイングを行い、院内災害訓練で実践した。</p> <p>2) 第1回災害対策訓練H.27年12月7日（月）実施 第2回災害対策訓練H.28年2月15日（月）実施</p> <p>3) 災害対策訓練を通して、避難経路の確認、報告体制の見直し。看護助手・保育士・医療事務職員用のアクションカードを作成して訓練を実施して、活用が図れた。</p> <p>4) 災害対策訓練を通して、各部署及び部署外エリアの確認個所を選定して、被害状況確認方法を定めた。また、防寒対策の効果的な方法を検証できた。</p> <p>5) 防災物品に関しては、看護部共通の内容を選定してチェックリストを新たに作成して、防災物品点検日や方法を検討し看護部統一事項とした。</p>

	活 動 内 容
専門・認定看護領域の質向上委員会 認定看護領域の質向上委員会 認定看護領域の質向上委員会	1. 運営状況： 全体会の開催：5月3月、各グループ会議を開催：7月、9月、11月、1月（のべ開催数14回） 2. 活動内容 1) 専門・認定看護師の視点で介入した実技シミュレーション（ハンズオンセミナー）の実施4分野全5回開催した。アンケート結果で評価し、講評を得た。 2) 院内の子どもや家族を対象としたイベントの開催 イベントを7回開催した。うち1回は2分野の協働開催となった。ポスターの展示やその内容に関連した相談対応を行い、患者・家族の参加者数は延べ499名であった。 3) 小学校教諭、養護教諭を対象とした看護フォーラムの開催 テーマ「子どもの頭痛を考える」とし11月14日に開催した。当日参加者は18名だった。フォーラムは、2名の専門・認定看護師による話題提供と小グループによる討議を行った。 4) 専門・認定看護師の活動マニュアルの作成 “専門・認定看護師活動におけるQ&A” 未完成項目および1項目を検討し作成した。 5) 専門・認定看護師活用マニュアルの改訂 改訂項目の検討と改訂作業を行った。 6) 専門・認定看護師ニュースの発行：月1回12号発行した。
NST・褥瘡看護部小委員会	1. 運営状況：5月、6月、7月、9月、11月、12月、2月の原則第1金曜日 2. 活動内容と評価 1) 活動計画に基づき、グループワークを行った。 (1) 体圧分散寝具の選択及び耐圧測定の推進検討グループ ① 昨年度作成したマニュアルを参考に1Bの重症心身障害患者、2Aの心臓外科術後患者をモデルケースとした。 ② 病棟全員が体圧測定器を使用し、測定できるようにした。（1B・2A） (2) CV・PICCの固定方法、ドレッシング剤の選択等検討グループ ① CV・PICCの管理の看護手順の見直しを行い、浸出や汚染がある場合は、イソジン消毒の前に生理食塩水洗浄を加えた。 ② CVの固定方法の修正を行った。 (3) NPPV（BIPAP・D-PAP）使用時の皮膚トラブル予防とマウスケア推進検討グループ ① 皮膚保護材を検討し、褥瘡対策委員会からの助言を得てエスアイエイドとしたが、新生児未熟児に関しては、断面から出る繊維が問題で、現状のデュオアクティブCGFとした。 ② 母乳を使用するマウスケアは看護手順として作成した。 2) 委員会全体での取り組み (1) NST、褥瘡対策委員会、栄養委員会の報告と情報共有 (2) 褥瘡回診の報告から事例を共有し、注意すべき事柄を共有した。 (3) 栄養サポートチーム、NST回診の報告、栄養委員会から報告と情報交換を行った。 3) 褥瘡対策における課題の対策 (1) 術後後頭部の褥瘡発生が連続し、その対策として①手術室・病棟間での2者で好発部位の確認をする。②体圧測定を実施し、頭部にはゲル枕を使用し、体圧分散を図る対策をした。

	活 動 内 容
R S T 看 護 部 小 委 員 会	<p>1. 運営状況：毎月第4金曜日14時～16時 年10回開催</p> <p>2. 活動内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) VAPに関する文献にて調査を行い、院内アンケートを実施し、ケア方法を提示した。 2) ट्रックケアのコアメンバーを2名育成し、病棟看護師講習を実施。患者1名に導入した。 3) 呼吸リハビリテーション研修の評価表を作成。年3回（9, 1, 2月）の研修を行い63名が受講し評価基準に則った手技を獲得できた。 4) 呼吸ケアガイドラインの見直しを実施し、1項目の修正必要箇所を抽出。修正案を作成し呼吸療法サポートチームに提示した。 5) カフ圧チェックリスト使用状況調査の実施。運用手順を作成。RST年間計画に追加した。 6) バギングチェックリストを呼吸ケアガイドラインに追加できるよう文章を構成した。 7) ベッドサイドチェック表の運用方法をリンクナースで調査し、運用方法を再周知した。 8) 挿管のベッドサイドチェック表を6月に作成。半年の検討期間を設け12月に承認を得た。
実 習 指 導 者 会 議	<p>1. 運営状況：年3回開催（5月、9月、翌2月 16:00～17:00）</p> <p>2. 活動内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護学生実習指導における情報共有 <ul style="list-style-type: none"> ・看護学生実習におけるインシデントの情報と対応について共有を図った。 ・看護学生実習受け入れにおける問題点や対応について情報共有を図った。 2) 今年度と次年度に向けた看護学生実習受け入れ状況の確認 3) 実習指導者講習会参加者からの研修報告を受け、情報共有を行った。
オ レ ム 推 進 連 絡 会	<p>1. 運営状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) オレム推進連絡会議 14時～16時（全7回） 2) オレム推進委員による事例検討会（全5回） 3) 全体ワークショップ 2月19日 17:30～19:00 <p>2. 活動内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) オレム推進連絡会議 <ol style="list-style-type: none"> (1) 事例検討会（5回実施） (2) ファシリテーターの役割、病棟における事例検討会の進め方について学んだ。 (3) リフレクションを通して学びを共有した。 (4) オレムの視点でのカンファレンス実施計画を各部署で作成し、実施した。 11月2月に進捗状況を発表し共有した。 2) 全体ワークショップ 「子どもと家族の力を引き出す看護を共有しよう」をテーマに各部署からの取り組みの成果の発表を行った。参加者65名。各部署での課題について討議し、看護実践への変化を共有した。